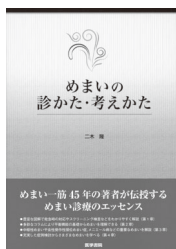


書評

[評者]

田久保秀樹

荏原病院・神経内科部長



めまいの診かた・考えかた

二木 隆 著

B5判 頁178 2011年

定価 4,725 円(本体 4,500 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01124-2]医学書院刊

めまいはプライマリケアの重要な症状の一つである。突然のめまいを発症した患者は嘔吐し、起立困難であれば車で連れてこられ、救急車を要請されることも少なくない。耳鼻咽喉科に限らず、かかりつけ医、内科、脳神経外科、神経内科に救急受診することが多く、患者は脳卒中などを心配して画像検査を希望することも少なからずある。また、慢性のめまい、ふらつきを主訴に受診する中高年の患者も多い。血液検査や画像検査をして異常がなければ対症療法で帰宅することになる。しかし、患者自身はめまいの原因がわからずに不安を抱えて生活している。自称メニエール病の何と多いことか。これらはめまいの診療では日常茶飯事である。

めまいはありふれた症状ではあるが、めまいで発症して小脳出血であった症例、軽いめまいの2日後に重篤な脳幹梗塞をきたした症例、ふらつきの原因が多発性脳梗塞・慢性硬膜下血腫であった症例、徐々に進行して脊髄小脳変性症であることが判明した症例など非特異的な症例も多々あり、小生は神経内科医であるが、めまいの診断は必ずしも容易ではないと常々考えている。本書ではその注意ポイントが平易に示されている。

著者はめまいを専門として研究を積み重ね、近年は地域医療の中で実地医家としてめまい診療をしている。本書は著者がまとめ上げた珠玉のエッセンスであ

る。第1章では緊急時と日常診療でのめまい診療を図解で大変わかりやすく解説している。問診の重要性和鑑別に必要な診察方法を述べ、二次・三次救急への搬送が必要なチェックポイントについて、めまいを専門としない医師のために詳細が示されている。プライマリケア医はぜひ一読いただきたい。第2章はめまいの病態を理解するうえでの基礎事項が歴史的背景を踏まえて解説されている。第3章ではめまいをきたす代表的な疾患について専門家でなくとも理解できるように説明されている。良性発作性頭位めまい症の項では運動療法についても図解で説明されている。メニエール病の項では突発性難聴からメニエール病に「化ける」症例が少なくないことを知って目からウロコであった。さらに第2～3章にある17のコラムは一息つきながら興味深く読めて、めまいを理解するうえで優れた内容である。

本書はめまいを診療するすべての医師に必要な事項をわかりやすく記載した著作であり、耳鼻咽喉科医はもちろん、めまいを専門とはしないが日常診療でめまいの診療をする機会の多い研修医、家庭医、総合診療医、内科医、脳神経外科医、神経内科医をはじめとするすべての医師に推奨するものであり、実践的な良書である。ぜひ一読のうえ、日常診療でご活用いただきたい。